

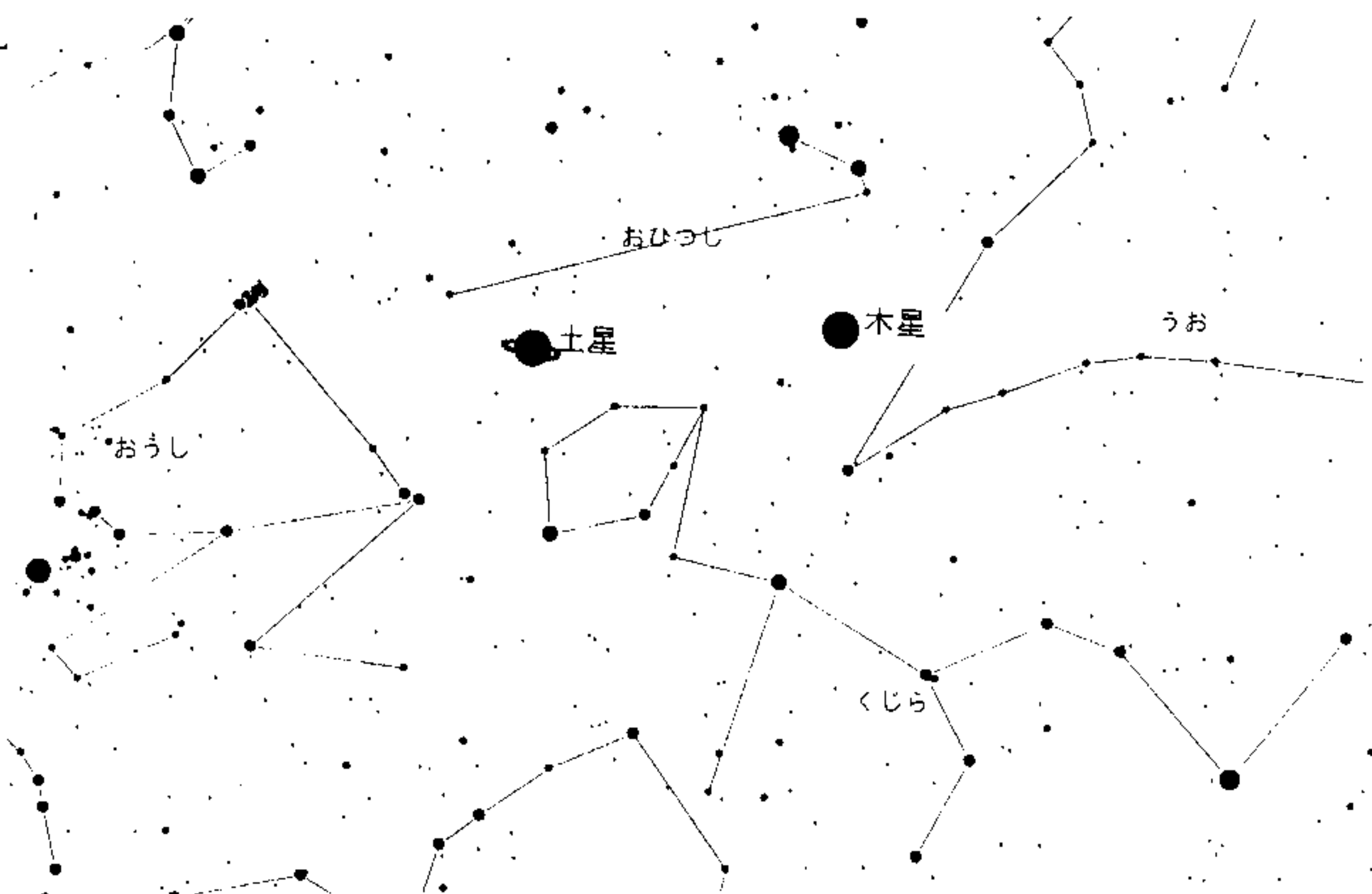
秋の星空

9月にはいると、日の入り時刻も早くなり、夜の時間が長くなります。
日没が終わり、夜空が真っ暗になるまを天文薄明と言います。この天文薄明に夜空を見上げると、夏の大三角が輝き、天の川と共にみごとな星空を見ることができます。先月号でお知らせしましたが、サソリ座の心臓アンタレスは赤色をしています。この心臓に火星も接近して、赤い2つの星を南の空に見ることができます。

――＜9月の星空カレンダー＞――

3日(金) ①下弦の月
10日(金) ②新月
18日(土) ③上弦
23日(木) 秋分の日
24日(金) 仲秋の名月
25日(土) ④満月
26日(日) 金星が最大高度
[－4.6等]

右の星図は、木星・土星
付近を拡大したものです。
夜9時ごろ、東の空にひ
ときわ明るく見える星が木
星です。そのすぐ東側にや
や明るい星が土星です。



木星・土星を観望しよう！

夏や冬の星空では、たくさんの一等星が目立ちますが、秋の夜空には目立つ星はありません。
寂しいはずの秋の星空ですが、今年は、木星と土星が秋の夜空でアクセントになります。

木星は約12年、土星は約30年かけてそれぞれ太陽を一周(公転)する惑星です。

9月には0等級で輝く土星とマイナス2.5等級の木星のランデブーを見ることができます。

＜双眼鏡での観測＞

木星…4つのガリレオ衛星を見ることができます。(地球でいえば月が4つもある)

土星…双眼鏡にもよりますが、土星の特徴である輪は、土星本体から耳のように出てやっと見えます。(※)

＜望遠鏡での観測＞

木星…直径が地球の11倍もあるため、望遠鏡なら縞模様がうっすら見えます。これは木星表面のアンモニアと硫化水素の模様です。

土星…望遠鏡を使うとやっと神秘的な土星の環を見ることができます。

【金星】明けの明星として、東のそらに輝きます。9月下旬になると、マイナス4.6等級にまで明るさを増して最大高度になります。しし座とかに座の間で輝きます。

【火星】夕方の南西天で赤く輝きます。

てんびん座からサソリ座を移動していきます。サソリ座を移動するときに「赤い色」をくらべてみましょう。火星の方が明るいですが、ほとんど同じような色をしています。

火星がわかったら、日をおって観察して下さい。少しずつ火星が移動していきます。夕方の空でだんだん見にくくなりますが、面白い現象を見ることができます。

※世界で最初に望遠鏡を使い観測したのはガリレオです。ガリレオは数多くの天体を発見しましたが、土星を見て「土星には耳がある」と表現しました。彼の望遠鏡では神秘的な環を識別することはできませんでした。(その後1655年にホイヘンスが“環”であることを見つけました。)